

令和7年度JAいわみざわ地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

(1) 地域の作物作付けの現状

当地域の耕地面積は18,000haにおよび、うち交付対象水田面積は14,502haと耕地面積の約80%を占めている。地域のほぼ中央を縦断する北海道縦貫自動車道以北は坦々とした平地が広がり、豊富な水資源を活かしながら稲作・畑作・露地野菜を中心に大規模土地利用型農業を展開している。また、自動車道以南東は丘陵地から山林地帯へと広がり、水稻を主力に施設園芸や果樹を組み入れた複合経営を展開している。令和6年度の転作面積10,484ha（転作率72%）のうち麦・大豆、地域重点作物（子実用とうもろこし・てん菜・そば・なたね）及び水田活用米穀で約87%を占めている一方、野菜・花卉は約7%にとどまり、その他は牧草・小豆・地力増進作物等となっている。

(2) 地域が抱える課題

農地の担い手への集積率は90%を超え、新たに策定された「地域計画」において地域の合意形成により示された担い手（農業を担う者）は明確になっている。一方、高齢化・後継者不足等により、農家戸数は年々減少の一途を辿っており、特に20ha未満の中小規模農家の戸数減少が著しい。経営体の大規模化により、労働力不足が顕著になることや野菜の作付け中止が懸念され、水田機能維持と併せた輪作体系や作期競合回避技術の確立、野菜産地としての生産体制づくりが喫緊の課題となっている。また、気候変動に伴う災害への備えや排水不良による湿害対策等生産基盤となる農地の地域事情に合わせた整備が求められている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当地域では、収益性の高い水田農業経営への転換を図るため、産地交付金を活用しながら、主食用米と比較して面積当たりの所得が高い野菜等の高収益作物や、時間当たりの所得が高い子実用とうもろこしの作付け拡大を図っているが、水田（交付対象）作に占める同作物の作付率は約7%と低い状況となっている。

今後は、水田をフル活用しながら、多様なニーズに対応した競争力の高い農産物の計画的かつ安定的な生産・供給が可能な産地づくりを一層進めるとともに、「水田農業高収益化推進計画の策定について」（令和2年4月1日付け元生産第2167号・元農振第3757号・元政統第2085号農林水産省生産局長・農村振興局長・政策統括官連名通知）に基づく産地推進計画の策定と合せて関係機関・団体等の連携による推進体制を構築し、規模拡大等に対応する集荷施設の再編・整備や基盤整備による排水対策を進めつつ、高収益作物や子実用とうもろこしの導入などに向けて一層の推進を図り、収益性の高い水田農業経営への転換を目指す。

高収益作物の導入にあたっては、需要が増加している野菜の安定生産や高品質化、消費者ニーズに対応した多様な品目の作付けなどによる産地ブランド力の向上、地域に適応した品種の選定・普及及び栽培技術の改善、スマート農業等の省力・低コスト生産技術の導入、出荷期間・販売地域の拡大など様々な取組みを通じて、特色ある産地づくりや収益力の向上による経営の安定化を進める。

子実用とうもろこしについては、販売先との連携を基本に需要に応じた作付けを進めるとともに、輪作作物としての活用を通じて生産性の向上を図る。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

水田転作の交付金に依存した経営が多い中で、転作作物については、高品質化、収量向上、低コスト化が求められており、そのためには、大区画化や用排水分離などの圃場条件の整備を進め生産力を高めていくことが重要となっている。

当地域では、田畑輪換方式の特性を活かし、空知型輪作による作付けのローテーションを促し、水田利用時の湛水による土壌病害虫発生の軽減や雑草発生の抑制、また、土壌物理性改善効果によって水稻と転作作物の双方の生産力を高めるための取組みを推進している。

一方で、畑地化の取組みを進めるにあたっては、新たに策定された「地域計画」により描かれた目標地図や担い手の農業経営改善計画などに基づく効率的な土地利用に配慮するとともに、地域の実情に応じた作物の本作化や計画的な農地の集積・集約化が図られるかなど、関係機関・団体と連携のもと、地域内・関係者間の合意形成を的確に行いつつ、畑地化への支援内容や基盤整備等に関する情報提供・助言を行う。

4 作物ごとの取組方針等

14,502haの交付対象水田を有する当地域が将来にわたって米主産地として生き残るためには、農地中間管理事業等を活用した農地集積により大規模化を進め、水張り面積を確保するとともに、用途別生産・販売の強化に取り組み、多様なニーズに対応した売れる米作りをより強力に推進する必要がある。一方、産地交付金を有効に活用して国内自給率の向上に資する麦・大豆の収量・品質の向上を図るとともに、基幹作物でJAブランドでもある玉葱、更にはJA振興作物となる白菜・南瓜・キャベツ・長葱・胡瓜・メロン・いちご・花卉の野菜・花卉生産の維持・拡大を図る。

(1) 主食用米

米の消費減少が進み、ますます産地間競争が激化する中で水張り面積を確保するためには、消費者・実需者を買ってもらえる米作りと販売力強化が重要であり、多様な消費者ニーズに対応するため、ニーズに合った米を均一な一定のロットで確保する。また、一定の栽培基準を設けたこだわり米についても作付けを拡大し、クリーン農業のイメージ強化とともに差別化を推進する。

(2) 備蓄米

水張り面積確保の観点から、需要に応じた柔軟な対応に努める。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米・イ 米粉用米・エ WCS用稲・オ 加工用米

主食用米の需要が減少する中、需要の拡大が見込まれるWCS用稲・加工用米等の生産を後押しする。飼料用米は、専用品種を主体に直播などコスト削減を図りつつ、国からの産地交付金を最大限活用して令和8年度に一定程度の面積を確保する。

ウ 新市場開拓用米

主食用米の国内需要が減少する中、内外のコメの新市場開拓に取組み、新市場開拓用米の作付け拡大を目指しつつ、水張り確保の観点からも令和8年度に一定程度の面積を確保する。

(4) 麦、大豆、飼料作物（子実用とうもろこしを含む）

農地集積が進んでいる現状においても主要な転作作物としての位置付けは変わらず、今後もこれら作物の収量・品質の一層の向上を図る。麦・大豆については、連作障害や春小麦の生産性及び大豆の雑草対策が課題となるため、水稻を組み入れた空知型輪作体系の確立や畑作物輪作の推進と併せて、技術が確立されつつある春小麦の初冬播きや大豆の狭畦栽培の拡大により、生産性の安定化に努める。また、子実用とうもろこしについては、その高い労働生産性と深根性及び豊富な収穫残渣の発生による有機物の補給が可能となるなど土壌改良効果も期待できるため、食料自給率の向上に資する飼料生産とともに、有用な輪作作物として作付面積の拡大を図る。

(5) そば、なたね

麦・大豆の作付けが不向きな北海道縦貫自動車道以南東の地域では、そばが転作作物の重要な位置付けとなっている。暗渠排水等土壌改良を進めながら、作付面積を維持する。また、なたねについては、輪作体系の一環として作付面積を確保する。

(6) 地力増進作物

空知管内は酪農・肉牛農家の割合が低く、堆肥の入手が困難である上に作業機械を所有している割合も低い。そのため、土づくりに必須な有機物の導入を地力増進作物（イネ科、アブラナ科、キク科、マメ科の地力増進作物として、えん麦、えん麦野生種、ソルガム、緑肥デントコーン、シロカラシ、チャガラシ、キカラシ、ひまわり、緑肥用大豆、ヘアリーベッチ、アカクローバー、クリムソンクローバ）によって行い、土壌物理性の改善により、高収益作物等の収量・品質の高位平準化を目指す。

(7) 高収益作物（園芸作物等）

米とともにJAの基幹作物である玉葱は、収量・品質の向上を目指し、輪作による地力や透排水性の改善によりブランド力の再構築を図る。また、JAの振興作物である白菜・南瓜・キャベツ・長葱・胡瓜・メロン・いちご・花卉は、地域性・経営規模・労働力調整等に配慮しながら、各品目の利点を活かした作付け推進で産地化に努める。その他の野菜、トウキ等においても生産者所得の向上に向けて作付け推進を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物等	前年度の作付面積		当年度の作付予定面積等		令和8年度の作付目標面積等	
	(ha)	うち 二毛作	(ha)	うち 二毛作	(ha)	うち 二毛作
主食用米	4,013.3		4,210.0		4,330.0	
備蓄米	29.4		0.0		0.0	
飼料用米	909.8		430.0		400.0	
米粉用米	0.9		0.0		0.0	
新市場開拓米	277.5		345.0		360.0	
WCS用稲	279.6		330.0		350.0	
加工用米	429.9		750.0		780.0	
小 麦	4,624.8		4,520.0		4,440.0	
大 豆	1,873.3		1,825.0		1,760.0	
飼料作物（牧草）	162.8		160.0		155.0	
子実用とうもろこし	247.0		255.0		260.0	
そば	197.6	51.8	185.0	57.0	165.0	45.0
なたね	92.9		100.0		110.0	
地力増進作物	377.6	85.8	432.0	142.0	450.0	150.0
高収益作物	(803.5)	(30.7)	(824.0)	(32.0)	(846.0)	(35.0)
白 菜	66.9	29.2	72.5	30.0	78.0	33.0
南 瓜	93.7		100.0		105.0	
キャベツ	15.0	1.5	20.0	2.0	22.0	2.0
長 葱	13.9		14.0		17.5	
胡 瓜	2.8		3.5		4.0	
いちご	1.5		1.5		1.7	
メロン	4.1		4.5		4.8	
花 卉	31.8		33.0		35.0	
たまねぎ	458.4		460.0		460.0	
その他の高収益作物	115.4		115.0		118.0	
その他	350.5		350.1		326.1	
てん菜	157.8		170.0		180.0	
小 豆	67.2		40.0		45.0	
その他	125.5		140.1		101.1	
畑地化	175.4		32.1		111.4	

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：北海道

協議会名：JAいわみざわ地域農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	空知型輪作体系確立加算（前作：水稻）	1	1,600	秋小麦・春小麦・大豆・てん菜・子実用とうもろこし	水稻(前作)との輪作体系取組
2	春小麦の初冬播き栽培推進加算	1	1,500	春小麦	初冬播きの取組
3	大豆の狭畦栽培推進加算	1	1,500	大豆	畦幅を概ね30cm程度
4	畑作物輪作推進加算 (前作・当年作：対象作物による輪作)	1	1,400	麦・大豆・なたね・てん菜・子実用とうもろこし・小豆・玉葱・別紙2-2に定める作物	前作・当年作：対象作物による輪作取組 (「大豆⇄小豆」「なたね⇄アブラナ科野菜」「個票別紙2-2その他作物一覧表に掲げる作物内の同一分類科に属する作物によるもの」は除く)
5	重点基幹作物助成(玉葱)	1	36,500	玉葱	作付面積に応じて支援
6	地力増進作物推進助成 (玉葱後作緑肥：二毛作)	2	3,900	玉葱後作緑肥	作付面積に応じて支援。鋤込み実施。
7	地域重点作物推進助成 (子実用とうもろこし)	1	23,300	子実用とうもろこし	作付面積に応じて支援。適切な防除等。
8	地域重点作物推進助成(てん菜)	1	27,200	てん菜	作付面積に応じて支援。適切な防除等
9	地域重点作物推進助成(そば・なたね)	1・2	11,600	そば・なたね	作付面積に応じて支援。適切な防除等 基幹作小麦後にそば二毛作の取組への支援を含む。
10	輪作体系確立作物推進助成(小豆)	1	31,000	小豆	作付面積に応じて支援。適切な防除等
11	単収実績加算(秋小麦)ランク1	1	1,500	秋小麦	単収500kg以上に対して支援
12	単収実績加算(秋小麦)ランク2	1	1,200	秋小麦	単収400kg以上500kg未満に対して支援
13	単収実績加算(春小麦)ランク1	1	1,500	春小麦	単収300kg以上に対して支援
14	単収実績加算(春小麦)ランク2	1	1,200	春小麦	単収250kg以上300kg未満に対して支援
15	単収実績加算(大豆)ランク1	1	1,500	大豆	単収280kg以上に対して支援
16	単収実績加算(大豆)ランク2	1	1,200	大豆	単収180kg以上280kg未満に対して支援
17	圃場整備後の作物安定化助成(地力増進作物)	1	19,300	地力増進作物	圃場整備対象圃場への作付け・鋤き込みに対して支援
18	飼料作物団地化加算	1	3,900	飼料作物	飼料作物を作付し、団地化要件を満たす場合に支援
19	耕畜連携（わら利用助成）	3	10,000	飼料用米・わら専用稲	助成対象作物が、有畜農家に飼料わら利用された場合 別紙1の取組を1項目以上実施
20	耕畜連携（資源循環助成）	3	10,000	飼料作物・WCS用稲（別表）	助成対象作物を有畜農家に供給し、堆肥の還元を受ける取組に支援
21	自給飼料更新作物助成	1	11,600	自給飼料更新作物 飼料作物優良品種（別紙2-1）	作付面積に応じて支援。排水対策等。播種による更新時のみ。
22	地域振興作物助成(露地推進)	1	55,100	白菜・南瓜・キャベツ・長葱・胡瓜・いちご・アスパラ・花卉	作付面積に応じて支援。
23	地域振興作物助成(トンネル推進)	1	59,200	白菜・南瓜・キャベツ・長葱・胡瓜・いちご・アスパラ・花卉	作付面積に応じて支援。
24	地域振興作物助成(ハウス推進)	1	63,200	白菜・南瓜・キャベツ・長葱・胡瓜・いちご・アスパラ・花卉	作付面積に応じて支援。
25	地域振興作物助成 (小麦後作白菜・キャベツ：二毛作)	2	15,600	麦後白菜・麦後キャベツ	作付面積に応じて支援
26	基幹作物助成(露地推進)	1	35,700	別紙2-2のとおり	作付面積に応じて支援。
27	基幹作物助成(トンネル推進)	1	39,600	別紙2-2のとおり	作付面積に応じて支援。
28	基幹作物助成(ハウス推進)	1	43,600	別紙2-2のとおり	作付面積に応じて支援。
29	地域重点作物推進加算(そば・なたね)	1	20,000	そば・なたね	作付面積に応じて支援。
30	新市場開拓用米	1	20,000	新市場開拓用米	作付面積に応じて支援。
31	新市場開拓用米の複数年契約加算（新規契約）	1	10,000	新市場開拓用米	助成対象作物の複数年契約(1年目)に応じて支援
32	地力増進作物の作付 (有機栽培や高収益作物等への転換に向けた土作り)	1	20,000	地力増進作物	土作りを行う地力増進作物の作付面積に応じて支援。

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携）」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的な要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

(別表) 耕畜連携(資源循環助成) 対象作物

青刈りとうもろこし、青刈りソルガム、テオシント、スーダングラス、青刈り麦(らい麦又はえん麦を含む。またサイレージ化したものを含む。)、青刈り大豆、子実用えん麦、青刈り稲、

WCS用稲、わら専用稲、青刈りひえ、しこくびえ、オーチャードグラス、チモシー、ペレニアルライグラス、ハイブリットライグラス、スミーズブロムグラス、トールフェスク、メドーフェスク、フェストロリウム、ケンタッキーブルーグラス、リードカナリーグラス、バヒアグラス、ギニアグラス、カラードギニアグラス、アルファルファ、オオクサキビ、アカクローバ、シロクローバ、アルサイククローバ、ガレガ、ローズグラス、パラグラス、パンゴラグラス、ネピアグラス、セタリア、飼料用かぶ、飼料用ビート、飼料用しば

飼料作物優良品種一覧表

区 分		
種類	草 種	品 種
1	チモシー	アッケシ
2		オーロラ
3		キリタツプ
4		クンプウ
5		シリウス
6		ノサップ
7		ホクエイ
8		ホライズン
9		ホクシュウ
10		なつさかり
11		なつちから
12		ヘリオス
13		アルテミス
14	オーチャードグラス	バックラス
15		ハルジマン
16		はるねみどり
17		ワセミドリ
18		トヨミドリ
19	ペレニアルライグラス	フレンド
20		ポコロ
21		チニタ
22	メドウフェスク	ハルサカエ
23		まきばさかえ
24	ケンタッキーブルーグラス	トロイ
25		ラトー
26	トールフェスク	ホクリョウ

区 分		
種類	草 種	品 種
牧草類 (マメ科牧草)	アカクローバ	アレス
		ナツユウ
		マキミドリ
		リョクユウ
	シロクローバ	ソーニャ
		タホラ
		フィア
		マキバシロ
		リースリング
		リベンデル
		ルナメイ
	アルファルファ	ケレス
		ハルワカバ
		ヒサワカバ
		マキワカバ

基幹作物推進加算で対象とするその他作物の一覧表

区 分			区 分		
1	ばれいしょ(でん粉原料用を除く)		①	アオイ科	
2	その他作物	野菜	2	アブラナ科	
3		あさつき(干本ねぎ)	3	イネ科	
4		明日葉	4	ウコギ科	
5		味美菜 ※ ②	5	ウリ科	
6		アスパラガス(グリーン・ホワイト・紫)	6	オモダカ科	
7		いんげん	7	キク科	
8		うど	8	キジカクシ科	
9		うり	9	コウヤワラボ科	
10		エゴマ	10	サトイモ科	
11		えだまめ	11	シソ科	
12		オクラ	12	ショウガ科	
13		カイラン ※ ②	13	スイレン科	
14		かいわれだいこん ※ ②	14	セリ科	
15		かぶ ※ ②	15	ゼンマイ科	
16		カラシナ ※ ②	16	タデ科	
17		カリフラワー ※ ②	17	ナス科	
18		カンロ(アジウリ、まくわうり)	18	ハゴロモモ科	
19		きのこ類	19	ハマミズナ科	
20		ぎょうじゃにんにく	20	ヒガンバナ科	
21		クレソン ※ ②	21	ヒユ科	
22		くわい	22	ヒルガオ科	
23		ケール ※ ②	23	マメ科	
24		ゴーヤ(にがうり)	24	ヤマノイモ科	
25		こごみ	25	ユリ科	
26		小ねぎ			
27		ごぼう(山ごぼうを含む)			
28		こまつな ※ ②			
29		こもちかんらん(芽キャベツ) ※ ②			
30		こんにゃく			
31		ささげ			
32		さつまいも(かんしょ)			
33		さといも			
34		サニーレタス			
35		さやいんげん			
36		さやえんどう			
37		サラダ菜			
38		サンチュ			
39		ししとう			
40		しそ			
41		しゅんぎく(菊菜)			
42		じゅんさい			
43		しょうが			
44		食用キク			
45		食用ハーブ			
46		食用花(エディブルフラワー)			
47		食用ゆり(ゆりね)			
48		シロウリ			
49		しろ菜 ※ ②			
50		スイートコーン(八列とうもろこしを含む)			
51		すいか(マダーボールを含む)			
52		ズッキーニ			
53		スナップエンドウ			
54		せり			
55		セルリー			
		ぜんまい			
56			56	そらめ	
57			57	ソルトリーフ	
58			58	タアサイ ※ ②	
59			59	だいこん ※ ②	
60			60	大根菜(すぐりな) ※ ②	
61			61	たいな ※ ②	
62			62	チコリ	
63			63	ちんげんさい ※ ②	
64			64	テンダーポール(花ニラ)	
65			65	とうがらし(なんばん)	
66			66	冬瓜	
67			67	トマト	
68			68	なす	
69			69	なた豆	
70			70	菜花 ※ ②	
71			71	にら	
72			72	にんじん	
73			73	にんにく	
74			74	にんにくの芽	
75			75	野沢菜 ※ ②	
76			76	パセリ	
77			77	花みょうが	
78			78	パブリカ	
79			79	はまぼうふう	
80			80	ピーツ	
81			81	ピーマン	
82			82	広島菜 ※ ②	
83			83	ふき	
84			84	ブロッコリー ※ ②	
85			85	ベビーリーフ	
86			86	ほうれんそう	
87			87	実えんどう(グリーンピース)	
88			88	みずな ※ ②	
89			89	みつば	
90			90	ミニトマト	
91			91	みぶ菜 ※ ②	
92			92	みょうが	
93			93	モロヘイヤ	
94			94	ヤーコン	
95			95	やまのいも(長芋・大和芋)	
96			96	落花生	
97			97	らっきょう	
98			98	ラディッシュ ※ ②	
99			99	リーキ(ポワロ)	
100			100	リーフレタス	
101			101	ルッコラ ※ ②	
102			102	ルバーブ	
103			103	レタス	
104			104	レッドキャベツ ※ ②	
105			105	れんこん	
106			106	わさび(水・畑・山わさび) ※ ②	
107			107	薬草(トウキ)	

※はアブラナ科野菜